

# サステナブルライフスタイル (2026年1月)

## 2025年, 家庭と社会のすがた

### “小中学生のスクールライフ”

---

#### あらすじ:

家庭にはディスプレイが普及し、生ごみは下水処理場に送られている。冷蔵庫には液晶ディスプレイがついていて、保存食品が賞味期限の順に表示されている。スーパーマーケットは「量り売り」と「バラ売り」が増え、余って捨てられる食材が少なくなった。粗大ごみは、購入時に廃棄段階で必要になる処理費を前払いするようになっており、不法投棄が激減している。レストランでは、食べきれないと持ち帰りパックに詰めてくれる。

---

#### 初詣は鎌倉八幡宮

山川家の正月は元旦のおせち料理と初詣で始まる。ゆっくり起きてきた護さん、美子さん、清子さん、豊さんは、普段より少していねいに顔を洗い、髪を整えて居間に顔を出す。美子さんと清子さんは薄く化粧しており、豊さんは頭髪をきちんと七三に分けている。服装も昨日の大晦日とは違い、カジュアルだがさっぱりした服に着替えている。家族がそろったら、美子さんが用意したおせち料理を前に、護さんが「あけましておめでとう」とあいさつして日本酒で乾杯する。おせち料理は蒲鉾やこぶ巻きなど伝統的なメニューと、美子さんが得意な里芋としいたけの煮物、それに魚介類の刺身が中心である。護さんは正月のあいさつをしながら、家族の健康と、清子さん豊さんの成長を喜んでいた。そして心の中で、2人が自立して家を離れる日がさほど遠くないだろうと感じていた。

ゆったりした食事が終わったら、日差しが暖かいうちに鶴岡八幡宮に初詣にでかける。豊さんは友人と富士山を見ながら湘南方面をツーリングするので、護さんは美子さんと清子さんの3人で参詣することにした。鎌倉駅をでて若宮大路の大鳥居から段葛の参道を歩くと、八幡宮のかなり前から進んだり止まったりしている。参詣する人が多いので、一度に入れる人数を制限しているのだ。でも誰も急がずに、隣人と小声でおしゃべりしながら、おとなしく待っている。平和でおだやかな雰囲気、人々をゆったりした時間の流れに包み込んでいる。

境内に入ると石畳の両側にお守りやお札、アニメキャラクターのお面、焼き栗や飴を売る小さな店が並んでいる。太鼓橋に近いところには、ヤマガラを使っておみくじを売るおじさんがいて、小鳥のしぐさがとても面白く見飽きない。ヤマガラはおじさんが鳥かごを開け、細い棒で止まり木を叩くとチョンチョンと渡り、鳥居をくぐって小さな社の前に行く。社の前では赤白の紐を引いて鈴を鳴らし、社の中からおみくじを一つくわえて戻ってくる。おじさんが棒の先でおみくじに触れると、足で押さえて封を切る。それをお客さんが受け取り、ヤマガラはピーナッツのひとかけらをもらって鳥かごに戻るのである。ヤマ

ガラはシジュウカラの仲間で、クルミなどを足で挟み、くちばしで叩き割って食べる。木の皮の中にある虫も引っ張り出して食べるから、その習性を利用して調教しているのだろう。境内をさらに進むと中央に舞殿があり、季節ごとにいろいろな踊りが演じられる。有名なのは4月の「静の舞」で、義経を想う白拍子姿の静御前が、「よし野山、みねのしら雪ふみ分けて、入りにし人のあとぞ恋しき」と切なく謡い踊る。舞殿を過ぎると左手にまだ小さい銀杏（いちろう）の木がある。以前は樹齢千年といわれる大銀杏が立っていて、高さ7メートル、高さが30メートルの壮大な姿が八幡宮のシンボルだった。源実朝を暗殺した公暁（くぎょう）が、この木の陰に隠れたという伝説から「隠れ銀杏」とも呼ばれ、天然記念物に指定されていた。だが2010年3月の強風で根元から倒れ、今の銀杏はその一部を移植したものである。まだ若くて細い銀杏を見ながら61段の石段を登ると、仁王門に守られた本宮に出る。山川さん一家は本宮でお参りを済ませると、左手の授与所でお巫女さんから新しい破魔矢をもらい帰路についた。元旦はいつも天気がよく、雨に降られたことがない。

## 中学校は給食を廃止

明けた2日には久しぶりに護さんの妹さん一家が遊びに来た。隣の市に住む妹さんは44才で、中学2年の男の子と小学5年の女の子がいる。最近では護さんの家に子供が来る機会が少ないから、彼らの話を聞くのがとても楽しい。それに小学生の姪はとても可愛いので、美子さんも清子さんもご馳走を並べて大歓迎している。護さんは子供たちにお年玉をあげると、義弟と酒を飲みながら皆の話を聞き始めた。公立中学に通う甥の話によると、学校は朝8時40分に始まり、15分のホームルームに続いて午前中は55分の授業が3回ある。午後は1時からで、3回の授業が10分の休憩を挟んで続く。その後は部活動の時間で、サッカー部に入っている甥は週に3回ぐらい練習や試合をしているそうだ。そのせいか色が黒く、細身の身体が健康的でたくましい。一番楽しいのは昼食とサッカーの時間だというから、勉強の方はあまり好きではなさそうだ。昼食には弁当を持参するが、学校に売りに来る弁当やパンを買うこともできる。外に仕事を持つ母親は朝が忙しいが、妹さんは専業主婦なので弁当を作る時間は十分にあるという。

中学の学校給食は2010年頃まで公立は9割、私立は1割が実施していた。しかし給食だと配膳と後片付けに時間がかかり、昼休みが短くなってしまう。それに個人の好みを反映できないので食べ残しが多く、残飯を処理するにも手間がかかるようになった。一方、家から弁当を持参したり、自由に弁当やパンを買えるようにすると、食べ残しが少なく時間もかからない。また、稼働日数の少ない学校給食は1食あたりの費用が800円を超え、コンビニ弁当よりはるかに高くなっていった。費用が高くても保護者が負担するのは約3割の食材費だけで、残りは市町村の負担だったから財政負担も大きかった。このようなくつきの理由から、2025年にはほとんどの市町村が中学の学校給食を廃止している。なお、昼食は教室で食べてもいいし、好きな友達と多目的教室で食べてもよい。多目的教室は少子化で空いた教室を転用したもので、行事の練習や放課後の補習にも使われている。

## 授業にはIT教材を活用

授業に使う教室の前面には、スクリーンとしても使えるホワイトボードがあり、天井にはパソコンで操作できるプロジェクターが設置されている。教壇には備え付けのパソコンがあり、ビデオ機能もある I T 教材を自由に操作できる。基本的な授業の流れは初めに先生が授業の要点を簡単に話し、それから I T 教材で一通りの解説が行われ、その後先生が教科書を使って詳細に説明する。I T 教材はほとんど全科目について楽しくてわかりやすく作られており、大きく発展した I T 教材開発会社から提供されている。I T 教材開発会社では、教育専門家と I T 技術者が、いかに生徒の好奇心を刺激して楽しく学べるかを心理的な側面からも研究し、その成果を教材に具体化している。たとえば体積の計算方法を教える数学のコマでは、コンピューターグラフィックを使って立体の形をいろいろな角度で見せながら説明している。理科では教室ではできない実験を、周到に準備された実験で効率よく見せている。英語も初めに身近な会話のシーンを見せるから、生徒は実用性を理解し学習意欲が湧く。色彩を自由に使えるのも I T 教材の長所だから、美術や生物の教育にも大きく貢献している。

これらの I T 教材は授業で使いやすいように、1 コマが 20 分程度の解説と演習問題で構成されており、インターネットを通じて簡単にダウンロードできる。各科目とも進度別に数百コマが作られているから、授業では自由にコマを選んで使える。放課後には多目的教室のパソコンで、生徒が自由に同じ I T 教材を使って復習できるようになっている。この部屋には、主に現役を退いたシニア教育サポーターが 6 時過ぎまで常駐し、生徒のどんな質問にも答え、授業中にわからなかった点はていねいに教えてくれる。I T 教材の利用は教員の負担を軽減するだけでなく、教え方の差による進度のバラツキを小さくし、教育効果と教育効率の向上に大きく寄与している。

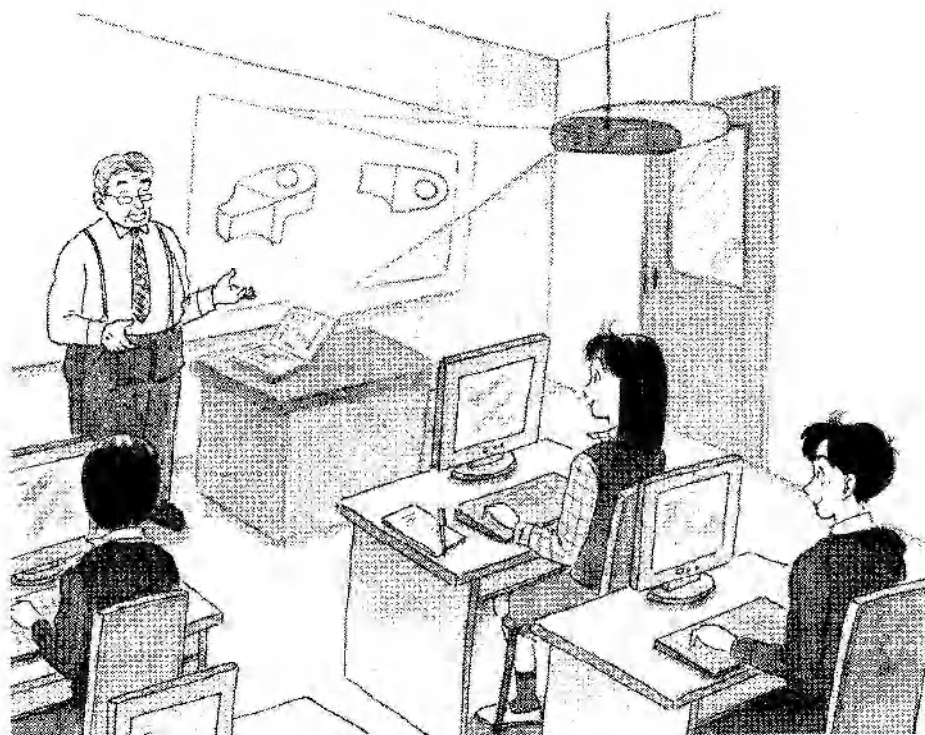
一方、学校生活の面では学則が生徒手帳に書いてあるが、人に迷惑をかけないことと、時間を守ることなど数行しかない。服装や髪型の規則はなく制服もない。だからイヤリングをつけ、薄く口紅をつけている女生徒もいる。茶髪やピアスをつけた男生徒もいれば、ときには派手な服装で皆を驚かせる生徒もいる。だが不快感を与えたり、迷惑をかけなければ構わない。2010 年頃までは服装や髪型を校則で細かく規定し、スカートの長さや靴下の色まで決めている公立学校があった。こうした学校では、先生が登校する生徒の服装を毎日チェックし、違反している生徒は処罰されていた。理由は服装の乱れが非行につながるということだったが、統計的な調査の結果、服装と非行は因果関係がないことが証明された。また、服装や髪型の規制は個人の表現の自由を束縛し、基本的人権を損なう側面があることから、2025 年にはほとんど廃止されている。ただしタバコとドラッグと危険物の持ち込みは一切禁止されており、先生も校内では禁煙になっている。

### 小学校の給食は選択制で民営

甥が話し終わると、小学 5 年の姪も負けじと学校の話始めた。友達が多いらしく、11 才なのにもう好きなボーイフレンドがいる。1 学級は 25 人程度なので、先生は一人ひとり

に目を向け、声をかけてくれるという。教科書は、全教科が A4 判のタブレットパソコンに入力された状態で貸与される。進学するたびに新しい教科書が入力されるが、前年度の教科書も残されているから復習に便利である。教科書がタブレットパソコンになったので、ランドセルが薄く軽くなった。でも A4 判なので、2010 年頃のランドセルより少し大きく平べったくなっている。授業は 1 コマが 45 分で、基礎的な教育だから先生の話が大事である。インターネット教材は例外的にしか使われていない。しかし一番楽しいのは甥と同じく昼食時間だというから、妹の家庭は食べることを生活の中心みたいである。昼食は中学と違ってパンや弁当は売っていない。小学生が一人ひとり売店で買うと時間がかかるし、お金を紛失することもあるからである。その代わりに給食があるが、家から弁当を持参しても構わない。というのも好き嫌いが多い子や、アレルギーで食材に制限がある子は、給食だと食べられずに残すことが多いからである。給食が選択制になったので公的な補助はなく、1 食約 600 円の全額を保護者が負担する。

学校給食は発足以来 50 年以上も公営だったが、2005 年頃から始まった「民間ができることは民間に」とする構造改革路線で、民営化が促進されるようになった。このため地方公務員だった栄養職員や学校専属の調理員がいなくなり、民間の給食会社が調理済みの食事を提供するようになってきている。給食会社は学校だけでなく、工場やオフィス、それに病院や老人ホーム向けにも食事を配達している。このため、公営で昼食しか扱わなかった学校専用給食より効率がよく値段が安い。中学校の給食が廃止され、小学校の給食が選択制になったので、食べ残しが 2010 年頃の数分の一に激減した。当時は 1 食平均で約 80 グラム、総量で毎日約 1000 トンがごみになり、その処理に莫大な費用がかかっていたのである。



(イラスト：海老原ケイ)